※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | ４１４ |
|---|---|

# 令和５年度　芸術科

| 教科 | 芸術 | 科目 | 書道Ⅰ | 単位数 | ２単位 | 年次 | １年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 書道Ⅰ　（教育出版） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小中学校の書写書道とちがって、深く書道の歴史をさぐり、3000 年の伝統に根ざした書道芸術を学びます。一口に書道といっても様々な表現があり、漢字仮名交じり、漢字、仮名、篆刻、現代詩のすべてを学びます。

## ２　学習の到達目標

書道をすることで、生涯、書を愛好する心を育て、書写能力の向上を図り、より豊かな表現ができるよう作品制作技術を身につけ、書道の理解を深めていく。
a:書道の時代的歴史を知り、表現の幅を広げることによって豊かな技法を習得していく。
b:自分の気持ちをよりよく表現する技術を得ることによって豊かな表現力を高めていく。
c:書の美しさを充分に感じとり、自らの意図に合った表現をして喜びにつなげていく。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能と知識を身につけて表現していく | 書の創造活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って主体的に表現し、創造活動につなげていく | 書のよさや美しさを感じとり、感性を働かせながら自らの意図に基づいて工夫しながら表現をしていく |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 書体の変遷 | 中国唐時代の完成された字形の美を臨書して味わう | a:歴史の深さを理解する<br>b:基礎的な能力を生かして表現を工夫している<br>c:技術を学ぶことによって表現の幅を広げる | 作品提出 | レポート | 観察 |
| | 書体の変遷 | 行書体の学習に入っていき、流れの美しさを味わう | a:行書体の基本的な用筆を理解し工夫して、その技術を身につける<br>b:行書の特徴を理解して的確な表現をしていく<br>c:行書のやわらかさを表現するために自ら工夫して研究していく | 作品提出 | レポート | 観察 |
| 2学期 | 篆刻 | 書道の作品へ押す印を自分で布字して刻していく | a:緻密な美しさを考え、それをよく理解する<br>b:篆刻における分間布白を理解し表現を工夫している<br>c:篆刻の面白さを体得し、一般書道にはない魅力を感じる | 印影提出 | レポート | 観察 |
| | うちわ・カレンダー・絵手紙 | 自己表現として様々な素材を用いて自由な表現を試みる(漢字仮名交じり) | a:身近なものへの表現方法を考えてみる<br>b:美を工夫して試してみる<br>そして身近な美というものを実践を通して考えてみる<br>c:調和する表現をすることによって実生活にそくした美を感じるようにする | 作品提出 | レポート | 観察 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 色紙をかく | 色紙作品を書く | a:正統な書道を学ぶことで古典的な表現を再び学ぶ<br>b:調和することを考えながら楽しく表現することを学ぶ<br>c:作品づくりを楽しみ、最後に印を押して達成感をよろこぶ | 作品提出 | レポート | 観察 |
| | 仮名作品 | 日本の古典「仮名」を学習して1年のしめくくりとする | a:日本書道の歴史を知ると同時に女性がはたした書道史を理解する<br>b:仮名の美しさを知ることによって日本人の美意識を理解し、表現していく<br>c:連綿を美しく表現することで日常生活にも取り込んで楽しむ態度を身につける | 作品提出 | レポート | 観察 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度